

折々の言葉 その5、2021年 (梅津寿一編) 修正・追加版(12.06)

- * 真実は醜い。真実のせいで死んでしまわないように、芸術がある。
ニーチェ
スティーブン・グリーンブラット「暴君」 (2021.05.22)

- * せかすことのできないものが三つありますーそれは神と、自然と、年寄です。
アガサ・クリスティー、ポアロ「青列車の秘密、p364」 (2021.07.11)

- * わが通いし楽しき大道、されどふたたび行くまじ・・・。
アガサ・クリスティー「自伝・上、p 169」 (2021.10.23)

- * 20歳の顔は自然がくれたもの、30歳の顔はあなたの生活が、50歳の顔にはあなた自身の価値が表れる。
ココ・シャネル (死後 50年)
朝日新聞・天声人語 (2021.01.21)

- * 敵の顔を見てびっくりする、あんまり自分の顔に似ているので・・・。
スタニスワフ・レツ (ポーランドの詩人)
朝日新聞「日曜に想う・福島申二、(2020.11.29)」 (2021.02.24)

- * 貴方の身に起こっていないからといって、それが起きていないということにはなりません。
大阪ナオミ (黒人差別をこえてー無知と無関心に・・・)
朝日新聞「日曜に想う・福島申二、(2020.09.27)」 (2021.02.24)

- * 嘘をつくのが上手で、大勢の人を信じさせることに成功すればするほど、ついには自分のウソを信じるようになるものだ。
ハンナ・アーレント「政治における虚偽」
藤原帰一「時事小言・2020.09.16」 (2021.11.09)

- * 一つの国が文明国家であるかどうかの基準は、弱者に接する態度、ただ一つしかない。
方方(「武漢封鎖日記」を公開した、中国の作家。 2020.08.01)
(2021.03.15)

- * 一度だけ語られた嘘は、うそのままであり続けるが、1000回語られた嘘は真実になる。
ヨーゼフ・ゲッベルス
ユヴァル・ノア・ハラリ「21Lessons、p307」 (2021.04.13)

- * キツネが言いました——「心で見なくちゃ、ものごとは良く見えないってことさ。
肝心なことは、目には見えないんだよ・・・」 「星の王子さま、21章」 (2021.06.05)

- * 神かけて言うが、子供の涙が大人の涙より小さいなんてことはなく、しばしばずっと重いものだ。 ケストナー「飛ぶ教室」
朝日新聞「日曜に想う・福島申二、(2021.02.21)」 (2021.02.24)

- * 何年勉強しても絶対に身につかないものは？
日本人の英語教育
アメリカ人の反戦教育
ロシア人の道徳教育
イタリア人の性教育
中国人のマナー教育 「民族性ジョーク」 (2015.01.14)

- * 人生においては、偶然を考慮に入れなければならない。偶然とはひっきょう神になる。
アナトール・フランス「エピキュールの園」
半藤一利「世界史の中の昭和史 p33」 (2021.08.17)

- * たった一つお願い事をしたい。今年は豊年でございませうか、凶作でございませうか。いいえ、どちらでもよろしゅうございます。 (中略) どうか、戦争だけはございませぬように……。 野上弥生子、昭和12年(1937年)年頭の挨拶 (2021.08.22)

- * 異民族や他国を見下したり排斥したりする「不寛容」は、人間の本能に近い「獣性」のようなものであって、これは「教育」によってたすしかない。
ウンベルト・エーコ
半藤一利「世界史の中の昭和史・あとがき」 (2021.09.06)

- * 民主主義とは個人の権利を保障し、一致団結してこれを保護するという恒久的な試みだ。
トール・D・ハンゼン、「ゲッベルスと私」 (2021.09.11)

南米エクアドルの民話

* ハチドリのひとしずく

森が燃えていました

森の生き物たちは われさきにと逃げていきました

でも クリキンディという名のハチドリだけは いったりきたり

くちばしで水のしずくを 一滴ずつ運んでは落としていきます

動物たちがそれを見て「そんなことをしていったい何になるんだ」といって笑います

クリキンディは こう答えました

「わたしは、わたしにできることをしてるだけ・・・」

「ハチドリのひとしずく」 辻信一監修、光文社刊 (2021.04.05)

朝日新聞「社説余適・増谷文生、(2021.04.04) (2021.04.05)

注：地球温暖化で人類一人一人が、この惑星の管理責任者として自分のできることをやることの重要性を、この民話が示唆している。

マザーグースの歌

* Monday's Child

Monday's child is fair of face,

Tuesday's child is full of grace,

Wednesday's child is full of woe,

Thursday's child has far to go,

Friday's child is loving and giving,

Saturday's child works hard for a living,

And the child that is born on the Sabbath day

Is bonny and blithe, and good and gay.

(2012.03.11)

谷川俊太郎・和訳

うつくしいのは 月曜日の子供

ひんのいいのは 火曜日の子供

べそをかくのは 水曜日の子供

たびにでるのは 木曜日の子供

ほれっぼいのは 金曜日の子供

くろうするのは 土曜日の子供

かわいく あかるく きだてのいいのは

お休みの日に 生まれた子供

注： 1969年ロンドン駐在時、コヴェント・ガーデン、ロイヤルバレーで、“Jazz Calendar”のタイトルで、このマザーグースがバレーで上演された。思い出の詩。

* This Little Pig

This little pig went to market,
This little pig stayed home;
This little pig had roast beef,
This little pig had none;
This little pig cried, "Wee, wee, wee,"
All the way home.

この子ブタさん

この子ブタさん 市場へ買い物
この子ブタさん おるすばん
この子ブタさん 焼肉食べた
この子ブタさん 何もない
この子ブタさん「ウィー、ウィー、
ウィー」うちにつくまで泣いていた

和訳：岩波文庫「対訳英米童謡集 p72 野一郎編訳 (2021.11.11)

注： アガサ・クリスティー、1942年発表のポアロ物「五匹の子豚」の関係者5人を、このマザーグースに当てはめ、犯人探しに利用している。

折々のうた 2021年 (梅津寿一編)

和泉式部

- * かぞふれば年の残りもなかりけり
老いぬるばかり かなしきはなし 和泉式部集上・冬 79 (2021.04.29)
- * 師走の晦の夜
なき人の来る夜と聞けど君もなし
わが住む里や 魂なきの里 和泉式部続集 943 (2021.11.16)

永田和宏・河野裕子、挽歌・相聞歌 (修正・追加)

- * 手をのべてあなたとあなたに触れたきに
息が足りないこの世の息が 裕子 (2010.08.11.河野裕子死去前日の歌)
- * あほやなあと笑ひのけぞりまた笑ふ
あなたの椅子に あなたがゐない 和宏
- * わたくしは死んではいけないわたくしが
死ぬときあなたが ほんたうに死ぬ 和宏

朝日新聞「永田和宏・喪の旅 (2021.01.13)」 (2021.11.16)
(2021.12.06. 名前修正・追加)

一茶

- * いざさらば 死に稽古せん 花の陰 文化句帖 (文化5年)
- * 死に支度 いたせいたせと 桜かな 七番日記 (文化7年) (2021.04.29)

人生節目の歌

- * 富士が見ゆ丘も見えたり人も居る
祖国へ我は 生きて還れり
- * 裏山の芽ぶき明るき中に居て
かへることなき 妻を思へり
ご近所に住む 100 老翁 小川豊久さんの歌 (2021.06.05)

- * 桃栗三年 柿八年
柚子は九年で花が咲く
梨の大馬鹿十八年
葉室麟「柚子の花咲く、p17」 (2021.03.16)

- * ソ連宣戦 はたと止みたる せみ時雨 徳川無声 (2021.04.29)
- * 八月や 六日九日十五日 作者不詳 (2021.04.23)

河野裕子 (2010.08.12.没・64 歳) (追加)

- * たとへば君 ガサッと落葉すくふように
私をさらつて行ってはくれぬか (森のやうに獣のやうに、1972 年)
- * たつぷりと真水を抱きてしづもれる
昏き器を近江と言へり (桜森、1980 年)
- * この身はも どこかに行ける身にあらず
あなたに残しゆくこの身のことば (蟬声、2012 年)
- * さみしくてあたたかかりきこの世にて
会い得しことを幸せと思ふ
(死の前日に、和宏が口述筆記で書き取った数首のうちの一首)

後記： この「折々の言葉」作成後、河野裕子の夫である永田和宏著「歌に私は泣くだろう」を読み、我ながら泣けるほど感動したので裕子の歌を追加した。(2021.12.06.記)

(2021.11.03)

(2021.11.18.了)

(2021.12.06.追加訂正)